



# 欧州図書館紀行

丸善株式会社 向井 幸治

2007年9月下旬に、欧州の高等教育機関で実施されている知的資本活動に関する現地調査のためいくつかの大学、研究機関を訪問した。その際に欧州を代表するウィーンのオーストリア国立図書館、コペンハーゲンのデンマーク王立図書館を訪ねる機会を得た。この2つの図書館は、インターネットや携帯電話の今、忘れていた図書館本来の姿である知をつなぐ空間の重要性を改めて考えさせられるものであった。

## オーストリア国立図書館

オーストリア国立図書館のあるウィーンは、オーストリアの首都で人口は、167万人。かつては、ヨーロッパの数



カ国を支配したハプスブルク家のオーストリア帝国の中心であった。ウィーンを中心から少し南寄りのヨーゼフ広場正面に立つ図書館は、バロック様式で建設され、世界で最も美しい図書館として知られている。元々王室ハプスブルク家の書庫であり、宮廷図書館(The Royal Library)と呼ばれ、帝国崩壊後1920年に国立の図書館(The National Library)となった。また建物としての歴史も古く、フィッシャー・フォン・エルラッハ親子が設計、1737年に完成した。

バロック建築は、建物と彫刻、家具が総合的に関わりあった総合芸術といわれるが、図書館では、古くから保存されている貴重な書籍までがその美しさを構成する芸術の一部となっている。宮廷図書館としての歴史は古く、14世紀にハプスブルク家のアルブレフト三世が各地に点在するハプスブルク家の遺産をすべて集めたことが始まりといわれている。図



書館がハプスブルク家の相続人として、世界でも重要な文化遺産の一部を永久に保存することを役目としている。

また、この図書館は、国立図書館として自国の出版物、学術書、電子媒体すべてを保有する機関でもあり、オーストリアに関連する海外の出版物、蔵書として保有することが適切であると判断された、すべてのものを収集している。その中でも、対トルコ戦争などで活躍した軍人オイゲン公の蔵書15,000冊や、宗教改革者マルティン・ルターに関する膨大な蔵書などがある。その他、芸術の都と称されるウィーンならではの音楽家直筆の楽譜、15世紀までの印刷物、地図、ポスターなど、芸術文化に関するさまざまな価値あるコレクションを所蔵し、特に価値のあるコレクションは、敷地内の博物コーナーに展示され、人々の注目を

集めている。

現在、図書館では、好奇心を刺激するテーマを掲げた様々な展示会を開催しており、2006年にはモーツァルト生誕250年を記念して、図書館内のプルンクサール(豪華広間)において、図書館が所有するモーツァルトのレクイエムのオリジナル楽譜を展示した「モーツァルト・レクイエム展」が開かれた。図書館は、美しさと蔵書数は群を抜いているが、利用者にとっては、空調設備や読書スペースなど少し不便なところも感じられる。しかし、図書館自体が、豪奢であり、誇りある知の空間を作りだしている。図書館全体の威厳が知的資産となり、オーストリア国内において図書館の社会的な価値を向上させていることを実感した。

### 〈基本情報〉

#### オーストリア国立図書館

Oesterreichische Nationalbibliothek

(Austria National Library =ANL)

設計者：1723-1737 フィッシャー・フォン・エルラッハ親子

開館時間：閲覧室【Main Reading Room】

10月1日～6月30日 月曜～金曜日9:00～21:00

土曜日 9:00～12:45

7月1日～9月30日 月曜～金曜日9:00～16:00

土曜日 9:00～12:45

9月1日～7日 休館

## デンマーク王立図書館

デンマーク最大の都市であるコペンハーゲンは、人口は52万人。また、シエラン島東部とエーレスンド海峡を挟んだ対岸のスウェーデン南部スコーネ県のマルメ市、ルンド市などを含めた都市圏人口は280万人に達する。王立図書館はコペンハーゲンの中心部から少し西寄り、スューハウネン運河沿いにある。約360年前にフレデリック3世により設立された歴史ある図書館である。

その南側に1999年新館が増築され、南アフリカ産の黒色花崗岩を使用した外壁が施されており漆黒に光る建物から「ブラックダイヤモンド」とよばれている。図書館の周りには古い建築物が多いが、運河沿いには近代的な建築物が建ち



並んでいる。新旧の図書館は、重厚な建物から、Schmidt, Hammaer & Lassen (シュミット、ハンマー&ラッセン) が設計した新しい建物をつなぐブリッジで、新旧の時代をつなぐ重要な役割を果たしているように感じる。このように欧州では古い建物を壊さず、増築、修復することが多くみられる。図書館は、デンマークの国立図書館であり、かつコペンハーゲン大学の図書館でもある。

国立図書館の役割として、自国および海外の自国に関するあらゆる出版物(書籍、逐次刊行物、新聞、リーフレット、写真、楽譜などの冊子体/デジタル形態) Ⅱ 国家の文化遺産として管理している。

一方、大学図書館としては、コペンハーゲン大学の人文社会科学系中央図書館の役割を担っており、レベルの高い学術的なサービスを提供して大学の教育・研究の



サポートを行っている。

昨年、新しく「王立図書館」と「国立図書館」と「コペンハーゲン大学図書館」の共同機構として、「For knowledge, insight and experience (知、洞察、そして経験のために)」とする運営方針を発表した。ここでも図書館が、知の継承者であることがうかがえる。また、図書館は、読書を楽しむ快適なスペースの実現を重視している。特に旧館の読書スペースは、眺めの良いところ、日のあたる場所、小窓の近くなど様々な心落ち着く空間を提供してくれる。デスクや椅子の種類や数も多く、くつろいだ雰囲気作りへの意識の高さを感じられる。



### 〈基本情報〉

#### デンマーク王立図書館

The Danish Royal Library  
(THE BLACK DIAMOND)

設計者：1999年 Schmidt, Hammaer & Lassen  
(シュミット、ハンマー&ラッセン)

開館時間：閲覧室【Reading Room West】

月曜～金曜日 9：00～21：00

土曜 9：00～17：00、日曜日休館

(ほか音楽・劇のセンター、東洋センターなど各センターにより開館時間は異なる)

日本の図書館は、その経済事情から苦しい状況にある。日々の運営を効率的にすることと、建物・施設のデザイン性の両立は難しい。しかし、このような時代であればこそ、図書館本来の姿を見つめ直し、図書館が醸し出す「知」のイメージを大切にすべきであろう。単なる運用上の利便さだけでなく、図書館が社会に対して誇りを持って知を感じさせる存在であり続けるようにしたいものである。

(教育・学術事業本部

ソリューションセンター長)